資料４

委員ヒアリング報告

○第３回審議会を受けて，委員ヒアリングを行いました。意見の概要とその対応は次のとおりです。

項目	意見の概要	対応
全体	○意味が分からない外来語は控えるべき。	○なるべく外来語の使用を控え、または用語集の解説で対応します。
	○高松の独自性（他とは違う、高松ならではのもの）は何か。どこにでもあるような文言は必要ない（「人口減少社会」など）。高松の独自性を謳えばいい。	○本ビジョンは次のような視点から策定しています。 ・競争力のある資源の活用 ・優先度の高い課題の解決 ・実現性の高い取組（取組主体がいる等） ○ただし、国としても高松としても重要な問題点や課題については、盛り込むようにします。
動向	○港を中心とした歴史の視点・都市環境の変遷も必要。「港町らしさの消失」。	○追加します。
現状認識と課題の整理	○各項目の「増加傾向」や「高くない」「やや高め」などといった文言ではなく、報告書には数値できちんと説明する。	○統計データ等の裏付けのあるものは本編作成時に対応します。
	○「創造的職種」「創造活動」「創造的人種」「クリエイティブ・マネジメント」については、定義を丁寧に解説する。	○本編作成時に対応します。
	○団体同士の連携が少ないとは、どういう連携が少ないのか分かるように説明が必要。	○検討します。
	○行政職員の創造的職務を創設する。職員の専門性が必要。	○次年度の審議会のあり方や U40 との連携方法について、第４回審議会で検討します。
	○発注システムを金額重視から質を高める方法に転換する。審査は外部の審査チームをつくってはどうか。	

項目	意見の概要	対応
1．３つのローカル	全体	
	○この 3 つのローカルになった理由が分からない。	○ビジョン（＝将来像）を描くに当たり、大切にしたいことを素材・技術・デザインで整理しました。 ○「素材」を「技術」で「設える」ことが高松らしさを生み出しています。これら１つ１つの要素や関係にクリエイティビティ（創造性）を入れることで、創造都市につながると考えます。
	ローカル・マテリアル（素材）	
	○讃岐三白は高松のローカル・マテリアルではない（塩＝宇多津、和三盆＝引田、木綿＝豊浜）。	○削除します。
	○「祭り」を入れる。	○追加します。
	○高松松平家（松平公益会）や法然寺のコンセンサスを得る必要がある。	○検討します。
	○ローカル・マテリアルにイサム・ノグチ庭園美術館を入れる。	○追加します。
	○もっと新しいものを素材として入れるべき。	○瀬戸内国際芸術祭や仏生山温泉、丸亀町商店街などを素材として追加します。
	○うどんより、オリーブや果物・野菜などの特産品を入れる。	○追加します。
	ローカル・テクニック（技術）	
	ローカル・デザイン（しつらえ）	
	○場所として「北浜アリー」、内容として「現代アート」を入れる。	○北浜アリーを追加します（現代アートはローカル・マテリアルに追加します）。
	○瀬戸内海が入っているならば、山も入れるべき（塩江を山として入れる）。	○追加します。
	○「海からみた陸」という発想があってもいい。	○追加します。

項目	意見の概要	対応
2．3つの将来像	全体	
	○課題からここまでのアプローチが不明。	○統計データの整理や関連計画の整理、関係者ヒアリング、策定委員会での検討を通じて、高松が創造都市に取組むに当たり、めざすべき将来像を３つに整理しました。 ○現状認識や課題は最後に見直しを図ります。
	○3 つの将来像はビジョンの中で一番目立つところである。プロジェクトまで話し合った上で、最後にもう一度将来像を検討したい。	
	○高松は昔から外から来た人に排他的でなく、住みよいまちとして発展してきた経緯がある。 ○「寛容性のあるまち」という表現はとてもいい。	○3 つの将来像をひとことで説明できるキャッチフレーズをつけます。
	○高松のまちが理想とするものをある程度示したほうがいい。	
	○創造都市のキーワードは「やさしさ」。	
	○創造都市の最終目標は、観光都市（交流人口の増加）。観光の視点を課題にあげるべき。	○「交流人口の増加」の視点を様々な取組に含めるようにします。 ○現在、創造都市推進ビジョンと併行して、観光振興計画を策定中であり、お互いに調整します。
	小さくても理想の暮らしができるまち	
	○「小さくても」を「コンパクトでも」に修正する。	○「コンパクト」は「小形で中身が充実している」意味であることから、「コンパクトな」と修正します。
	「クリエイティブ暮らす」がたくさんあるまち	
	○「クリエイティブ暮らす」は今の流行りであり、計画期間の５年後まで賞味期限か分からない。	○将来像は、現在流行しているものから選んだ訳ではなく、「将来このようにあって欲しい」まちの姿を記載しています。
	○「クエリエイティブ暮らす」にもうひとつ何か入れられないか。	○分かりやすい表現を検討します。
	「芸指数」が高いまち（民藝・工芸・民具）	
	○「芸指数」については、クラフトに偏っている。ものづくりだけでなく、食の伝統・文化や職人もいる。それらを育てる環境や土壌もある。人物・風物・産物という地域の産物を切り口に据える。	○クラフトに偏らないよう、修正します。 ○人物（＝テクニック）、風物（＝デザイン）、産物（＝マテリアル）を「3 つのローカル」としてまとめています。
	○「芸指数」は一般人に分かりにくい。マイノリティとしての「ゲイ」にかけているかもしれないが、そもそも最近は「ゲイ」と呼ばない。	○分かりやすい表現を検討します。 ○なお、ゲイ指数はボヘミアン指数などとも呼ばれるようですが、詳しくは用語集での解説で対応します。

項目	意見の概要	対応
3．3つの戦略	全体	
	○どこまで具体化できるのか疑問。	○平成 25 年度に具体的なアクションプランを検討します。
	グローバルにひらく戦略	
	○「グローバルにひらく戦略」は創造都市と相反するのではないか。	○世界中で都市間競争が激化する中、クリエイティブシティとして高松が生き残るためには、「高松ならでは」の地域資源やブランドを活用して、国内だけでなく海外でも競争力を持つことが必要であり、グローバルにひらいていきます。
	○国際的な市場を意識した取組が求められる。県外・国外から人を受け入れる受け皿がなくてはならない。	○「グローカルにひらく戦略」を設定し、各取組でも国際的な市場を意識した内容とします。
	○グローバルにひらく戦略の部分にコンベンション観光を中心とした取組の記述がほしい。	○追加します。
	高松ならではのブランドを編集する戦略	
	ゆるやかに連携し、段階的に取組む戦略	
	○次年度からではなく、今年度の瀬戸内国際芸術祭からできることをスタート。	○U40 などを通じて、できるところから取組みます。
	○行政が全て行うのではなく、キーマンをうまく利用すべき。	○ゆるやかな連携を通じて、行政と民間が一体となった取組を進めます。
	○金がなくて困っている時に新たな事業はできない。今あるものを生かすこと、工夫することが大事。	○できるところから取組みます。 ○一方でお金がかかっても検討すべき事項については、ワーキンググループを設立する等して、長期的に取組みます。
4．創造的アプローチ	場の創出	
	○場の創出（空間）にコンベンション施設の充実を記載する。	○追加します。
	○審議会を開催した場所の研究・検討・活用が必要（北浜アリー、高松市美術館）。	○追加します。
	創造的人材の集積	
	○何事も継続的に取組むには、人材育成が大事。市内で研修会を開くのも良いが、いろいろな業種の方に外で研修してもらい、それを持ち帰って共有するような場があると良い。	○追加します。
	○北浜などの古い建物を利用して住んでもらう。	○修正します。
	○イタリアを訪問すると、クリエイティブな人やマエストロと市民が接する機会が多い。高松もそんなまちをめざす。	○修正します。
	編集・発信	
	○まずは高松にある良いところをクローズアップし、宣伝アピールをする。	○修正します。
	○他都市からの働きたい人に就労などの情報を発信する。	○追加します。
	○グローバルに PR できる異業種がゆるく集まって活動できる組織をつくる。	○追加します。

項目	意見の概要	対応
5．主なプロジェクト	フード・イノベーション・プロジェクト	
	○フード・イノベーションは面白い。塩江で何かできないか。	○次年度にアクションプランを検討します。
	○「新規就農者」の確保・育成や耕作放棄地の引継ぎはできるのか。	○関係者ヒアリングを通じて、実現性の高い取組を選んでいますが、具体的なアクションプランは次年度に検討します。
	○JA の空き施設（倉庫）を有効利用しながら、新規就農者、耕作放棄地再生に取組む人材をグループ化・組織化し、地域農業の受け皿とする。	○修正します。
	○食育（日本食、特に伝統的日本食）の大切さを記載してほしい。	○追加します。
	高松チルドレンズ・ミュージアム・プロジェクト	
	○「子どもの創造力を育てる芸術士の取組」は「こどもの創造力を育てる取組の推進」に変更する。	○修正します。
	○「高松チルドレンズ・ミュージアム・プロジェクト」は「高松チルドレンズ・プロジェクト」に変更する。	○修正します。
	ワールド・フェスティバル・プロジェクト	
	○交通マナーの悪さの改善策。例えばお祭りと連携したマナーアップの取組。	○次年度にアクションプランを検討します。
	○「高松まつり」はよさこい祭りや阿波おどりには敵わない。総合フェスティバルとし、中央通りで小学生による 50 メートル走の協議なども行う。	○次年度にアクションプランを検討します。
	グローカルな生活工芸プロジェクト	
	○高松にしかないようなお店を出したり、職人を育てることが重要。	○修正します。

項目	意見の概要	対応
5．主なプロジェクト	海園・田園とつながる人間都市プロジェクト	
	○「おもてなし」「お接待」といった心の部分（創造都市の原点と考える）が表現されていない。	○追加します。
	○讃岐山脈の後に、「平野が広がり、気軽に登れる里山や周回できるため池が身近にある」の表現を入れる。	○追加します。
	○取組イメージの「歩きたくなる高松」を「ウォーキング、ジョギング、サイクリングなど回遊したくなる高松」に変更。	○修正します。
	○島への感覚的な距離感が遠いため、「フェリー乗り場の跡地/ヨットハーバー隣の砂浜を駐船場に整備」する。	○「海園・田園とつながる人間都市プロジェクト」の取組イメージを修正。
	○交流空間・公共空間の再編が必要。港周りを歩いて楽しいまちにする。 ・玉藻城周辺　市民のプロムナード計画 ・玉藻城周辺　公園化計画	○追加します。
	○公共交通システムの見直し（循環交通システム）。生島グラウンドまで。	○追加します。
	○駅を降りてから丸亀町商店街までのルート開発が必要（観光客目線のまちづくり）。伝統工芸の歴史が分かる博物館や、お土産が買えるところがルート上にあるといい（高松駅～中央通～浜街道～四電前～三越の整備）。	○追加します。
	○市内の全域（商店街など）に距離を表示し、ベンチを置いたウォーキングコースを設定する。	○次年度にアクションプランを検討します。
	その他	
	○6 番目として「コンベンション・プロジェクト」を加え、関連事業を記載してほしい。	○追加します。
	○コンベンション関連施設もあるサンポートの利用を積極的に行う。サンポートと瀬戸内海の眺めを積極的にアピールするなど。	○追加します。
	○サンポート周辺から玉藻城あたりの景観はまったく魅力がない。いい素材（点）は良いが面が駄目。	○「コンベンション・プロジェクト」として追加します。
	○サンポート高松に体育館を建設する。	○次年度にアクションプランを検討します。
	○玉藻公園に天守閣を建設する。	
6．推進に向けて	○都市整備局と観光の連携が必要。庁内ワーキンググループの設置など。	○次年度の審議会のあり方や U40 との連携方法について、第 4 回審議会で検討します。
	○市美術館の改修計画などと創造都市の理念の調整が必要。ワーキンググループの設置など。	
	○U40 との連携を願いたい。意見集約し紹介されているが、連携できていない。	